

The 17th annual Int`l Land Policy Forum
October 28th, 2010

いま、なぜ、『グリーン金融』か



持続可能な社会を目指して

Takejiro Sueyoshi
Special Advisor to UNEP Finance Initiative
in the Asia Pacific region



金融を巡る社会の変化

October 28th, 2010

地球温暖化を巡る世界の流れ

2

山積する地球規模の課題

1. 加速化する地球温暖化
 - 2正面の闘い—「**緩和策**」と「**適応策**」
2. 地球の過剰酷使
 - エコロジカルフットプリント
地球2.3個分の消費生活
 - 自然資源の枯渇
3. 貧困・教育・人権・感染症などの社会問題
 - 飢餓人口(9億人)、貧困層(14億人)
the next 4B(BOP)
4. 爆発する世界人口
 - ~ 問題解決がなければ、未来はない ~

なぜ、多数の難問が同時多発か

ー 20世紀の「経済の在り方」が、間違っていた

① 20世紀型「経済成長至上主義」からの脱却

- ・ 短期利益主義／排他的／環境破壊

② 21世紀型「持続可能経済」の構築

- ・ 長期主義／包摂的／環境保全

～ ブラウン経済から、**グリーン**経済へ ～

どうやって経済を変えるのか

— 企業行動が変われば、経済が変わる

企業行動を変えるには:

- ① 法律や規制など(国際ルールの競争)
- ② 消費者を変える(グリーン消費革命)
- ③ **金融**を変える
- ④ 無論、**企業**自身の変革も

～ 強まる**社会からの期待と要求**～



グリーン金融の広がり

October 28th, 2010

地球温暖化を巡る世界の流れ

6

なぜ、金融なのか

- ①金融は「社会の金の仲介者」
- ②金融がどこにお金を流すかで社会や経済が変わる
- ③戦後の日本経済の復興と、金融の役割
- ④バブル経済とサブプライムローン問題

～金融は社会の**基礎的インフラ**～

UNEP FIの歴史

- 1972年 国連人間環境会議「ストックホルム宣言」
- 1992年 リオ・サミット
 - 金融イニシテイブ(FI)の誕生
- 2000年 「気候変動は地球経済の波乱要因」
- 2004年 “Materiality Report I ~ II”
- 2005年 “Fiduciary Duty”の研究
- 2006年 責任投資原則(PRI)

投資の世界に新しい風が

—Principles for Responsible investment
「責任投資原則」

2006年 PRIスタート

2010年 808機関／20兆ドルの署名機関

<原則の第一条>

投資判断に

環境(E), 社会(S), ガバナンス(G)

を反映させる

Universal Ownership

—2010年10月、UNEPFI+PRI

“Why environmental externalities matter”
to insitutional investors”

- ・2008年の環境破壊の大きさは、**6.6兆ドル**
うち、世界トップ3000社の責任は、2.15兆ドル
- ・経済活動による環境ダメージは、将来、
投資ポートフォリオを著しく傷めることになる

Demystifying Materiality

—2010年10月、at COP10 by UNEP FI
“Hardwiring **B**iodiversity and **E**cosystem
Services in Finance”

- ・生物多様性の喪失や、エコ・サービスの劣化は金融にとっての“リスクとチャンス”である
- ・先見性のある金融機関は、BESをその本業に組み込むべきだ



グリーン金融の現場

October 28th, 2010

地球温暖化を巡る世界の流れ

12

もっと、カーボン情報を出して

—Carbon Disclosure Project

- 2000年 3人の英国人
- 2003年 CDP1 (世界のトップ500社へ質問状)
- 2008年 CDPジャパンの発足
- 2010年 CDP8 (世界の4000社宛て)

～金融と企業との「炭素会話」が広がる～

抑制するプロジェクト・ファイナンス

—2003年6月、“The Equator Principles”
「赤道原則」

- ・途上国における開発案件（10百万ドル以上）は、
 <環境と地域社会>
 に対する影響を良く調査する
- ・基準に満たないものは改善を求める
- ・それでもパスしなければ融資に応じない
- ・約70機関が署名

自らを律する原則が続々と

- 炭素原則(2008年、米国の有力金融機関)
- 気候原則(2009年、欧州の金融機関)
- 露天掘りへの融資厳格化(2010年、米国)
- 日本版「金融行動原則」を策定へ(2010年)

米証券取引委員会の方針転換

—2010年1月、SEC, 歴史的ガイダンスの見直し

- ① これまでは、株主からの要求でも答える必要なし
- ② 急転直下、義務として開示するケースがある
- ③ 背景には機関投資家からの強い要求
- ④ この決定は、様々な形で広がってゆく

資本市場、ESG Indexの登場

Bloomberg : CD情報の掲載(3000社)

MSCI : RiskMetrixの買収

MSCI Global Climate Index of 100

FTSE : Carbon Strategy Index Series

Reuters : Point Carbonの買収

行動する年金基金

ノルウエー公的年金

- ・世界的鉱山会社から資金を引き揚げ

スウェーデン公的年金

- ・Sustainabilityと財務リターンは相反しない

韓国公的年金

- ・PRI投資を開始

CalPERS

- ・厳しい株主行動を活発化

～年金に広がる**PRI投資**の流れ～

ある有力コンサルタントの変心

—Roger Urwin氏 (Towers Watson, 10年7月)

<Sustainable Investment>

- ・長期投資
- ・ESG配慮
- ・株主行動
- ・世代間の連携

にとっての有力な手法だ

～これほどの**深い意味**があるとは思ってもいなかった



パラダイムシフトが始まった

October 28th, 2010

地球温暖化を巡る世界の流れ

20

新しい価値観の誕生

1. **CO2**をたくさん出し続けるのは悪いことだ
CO2排出を減らすのは良いことだ
2. **生物多様性**を破壊するのは悪いことだ
生物多様性を保全することは良いことだ
3. 企業は問題の一部になってはいけない
企業は**解決**の一部になるべきだ

変わらざるを得ない企業経営

- ① 財務業績だけでは、もうダメだ
- ② 社会的業績が、不可欠に
- ③ 成功する企業は、「財務＋社会」を同時達成
- ④ 「**ESG経営**」こそが、競争力の源泉に

「不動産」の社会的責任

- ① 「不動産」の持つ**ポテンシャル**は大きい
- ② 「ロックイン効果」は、許されない
- ③ 「未来基準」の、先取り
- ④ 金融の責任

おわりに

～低炭素社会の構築に向けて～

未来価値での競争が始まった

青い地球



October 28th, 2010

地球温暖化を巡る世界の流れ

NASA Visible Earth

<http://visibleearth.nasa.gov/>

The Blue Marble

http://visibleearth.nasa.gov/view_rec.php?id=2429

The Blue Marble(ブルーマーブル)データは、可視光で捉えた地球の本当の色(true-color)を、数年にわたる膨大な地球観測衛星データの処理に基づき記録した画像データ。

昔の人の教え

Treat the earth well:

地球を大切に扱いなさい

It was not given to you by your parents,

地球は親から貰ったものではないですよ

It was **loaned** to you by your children.

それは子供たちから**預かったもの**なのです

—Ancient Indian Proverb



Thank you for your attention